

—夏季大学雑感—

第13回夏季大学『新しい気象』講座雑感

(財)気象協会北海道本部 若林徳司

第11回の講座雑感の中で『新しい気象』というテーマにあまり拘らずにタイムリーで、かつ判りやすい話題の提供を心掛けていくという方向性を記述したことを記憶されている方も多いかと存じます。

その観点から見ると今年の講義内容は気象、地象、天文及び気象予報士制度の紹介とバラエティーに富んでいると言えます。

しかし、講座で使用するテキストの題は、気象講座『新しい気象』と銘打ってあります。従って、次回からは気象の講義(話題)を多くする必要性があると強く感じたところです。

さて、第13回夏季大学の特徴は

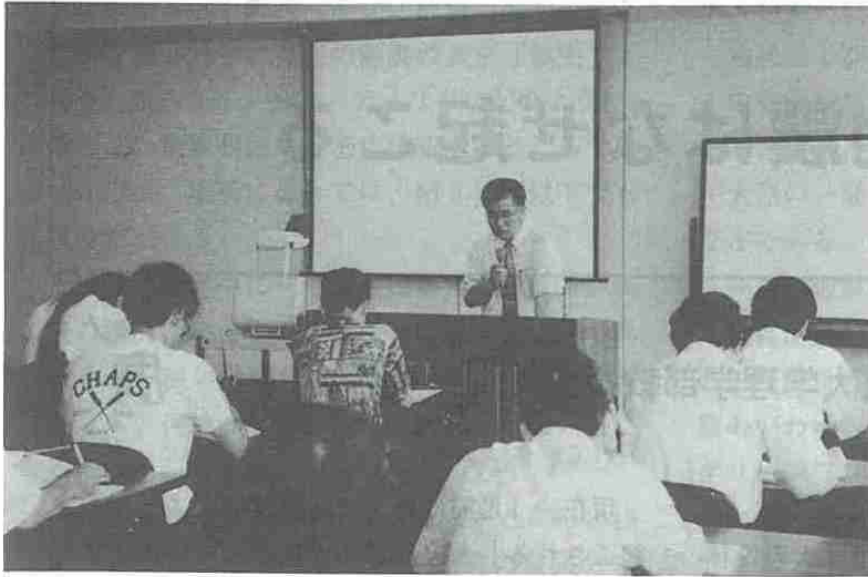
- ①中学生からご年配の方と幅広い年齢層の参加が得られたこと。(講義の内容にもよる)
- ②普段、大学ではなかなか聞かれない、岡田廣先生(北海道大学理学部教授)の講義ということで、大学生の参加が例年になく多かったこと。
- ③子供たちの理科離れに歯止めをかけようと努力されている小中学校の先生(教諭)の姿が多く見られたこと。

以上、3点が挙げられます。また、この講座のもう一つの特徴として、例年、施設の見学会を実施しています。今年は4年振りに札幌管区気象台の見学を予定したところ参加者50名全員が希望され、新しい地震観測システム及び地域時系列予報のシステムを見せていただいた。各講座においても、ある程度の予備知識のある受講生が多いせいか、活発な質問があり、また、見学会においても施設のご案内をいただいた、札幌管区気象台業務課広報係の諸氏も質問攻めに汗だくの対応であったことは、講座を主催する側にとっては喜ばしいかぎりであります。

ところで、今年の夏は昨年ほど暑い夏ではありませんでしたが、会場の狭隘いと暑さ対策は一工夫をする必要があると思われれます。しかし、少ない予算と運営方法からいってなかなか妙案が浮かばないのが現状です。

しかし、札幌管区気象台会議室の冷房設備の整備も終了し、また、札幌市青少年科学館の研修室も平成9年春には完成すると聞いています。受講者の皆さんにはもう少し辛抱していただければと思います。

最後になりましたが、例年、この講座の開催に当たり、会場の準備や接待役を快く引き受けていただいた札幌市青少年科学館の学芸課、気象協会北海道本部の総務課の皆さんに、この紙面を借りて厚くお礼申し上げます。

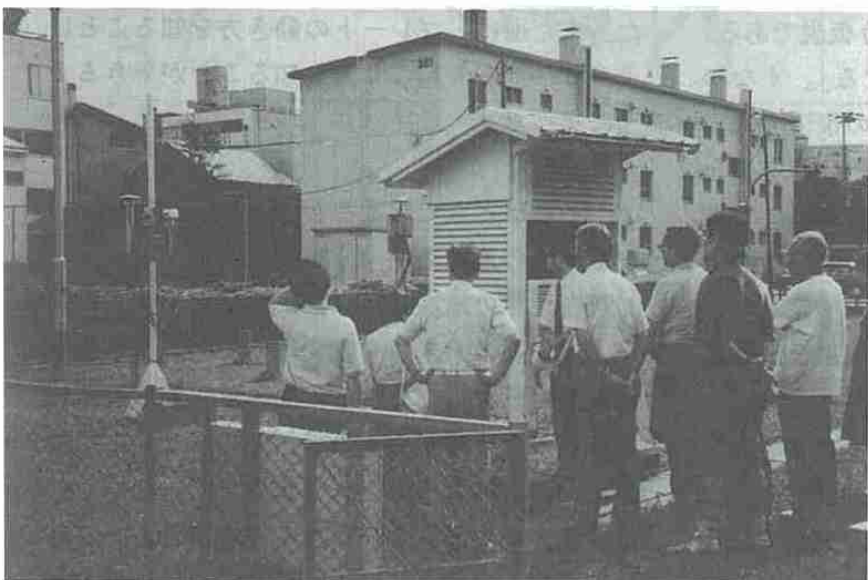


第13回夏季大学『新しい気象』講座

◀ 受講風景
(気象協会北海道本部にて)



◀ 受講風景
(気象協会北海道本部にて)



◀ 札幌管区气象台見学風景